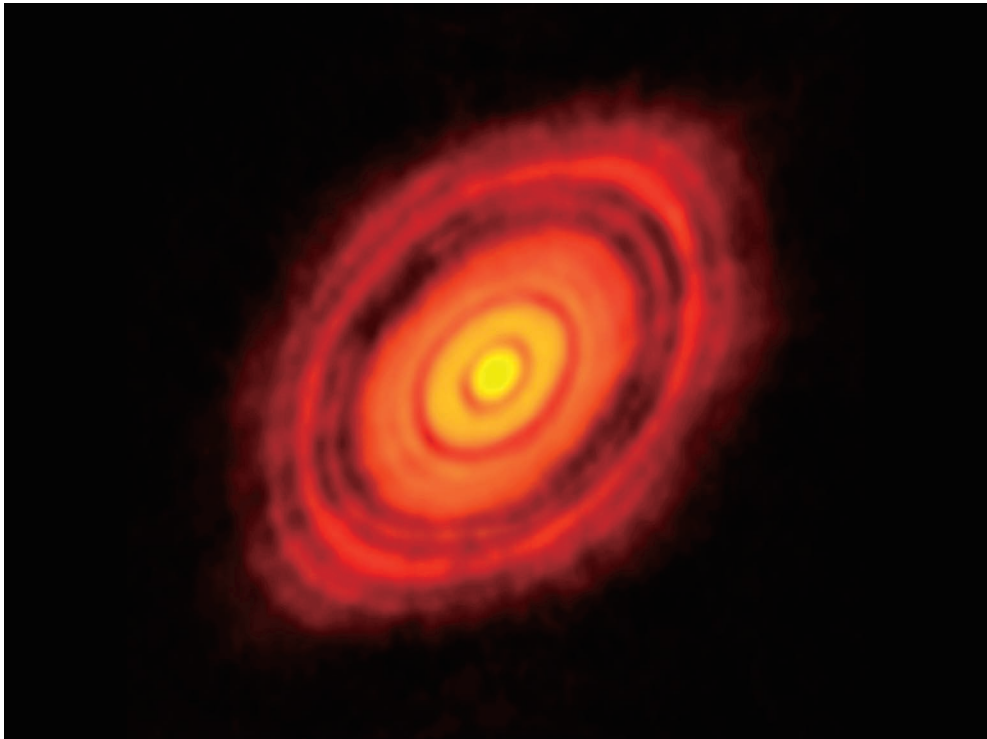
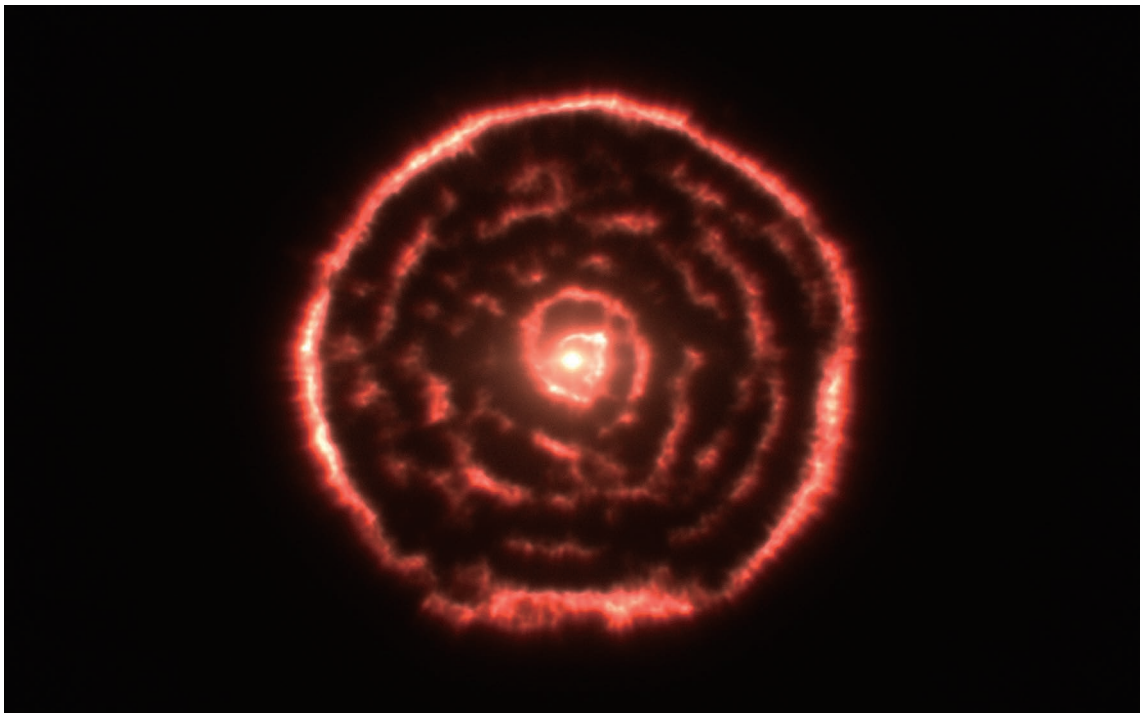
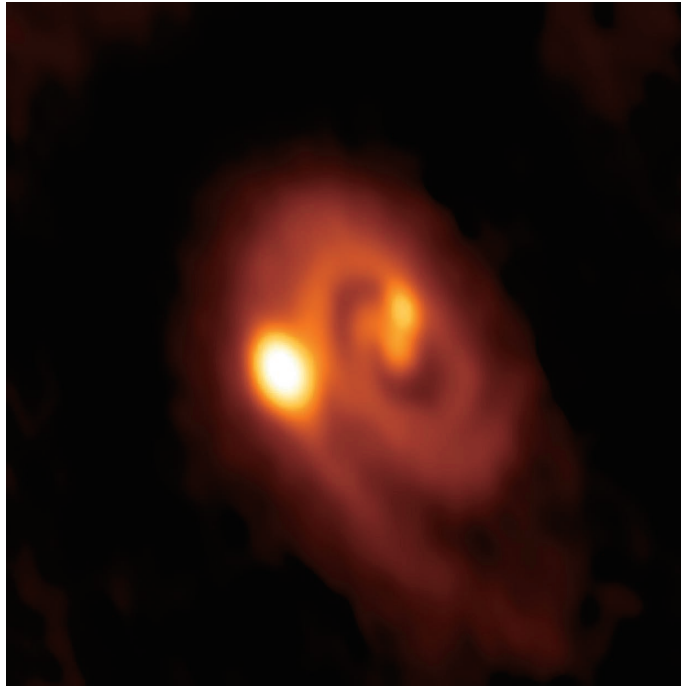


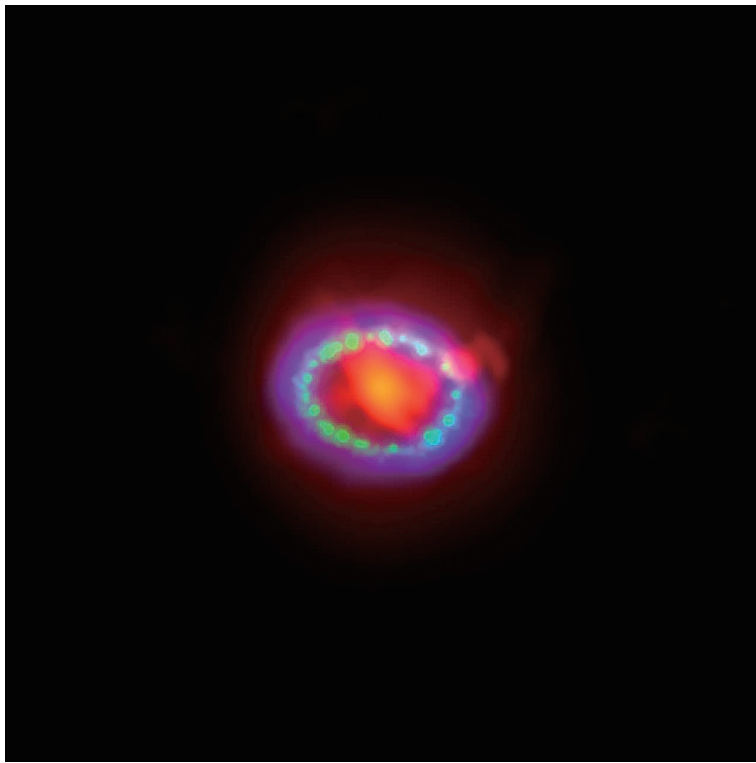
「アルマ望遠鏡特集」ギャラリー



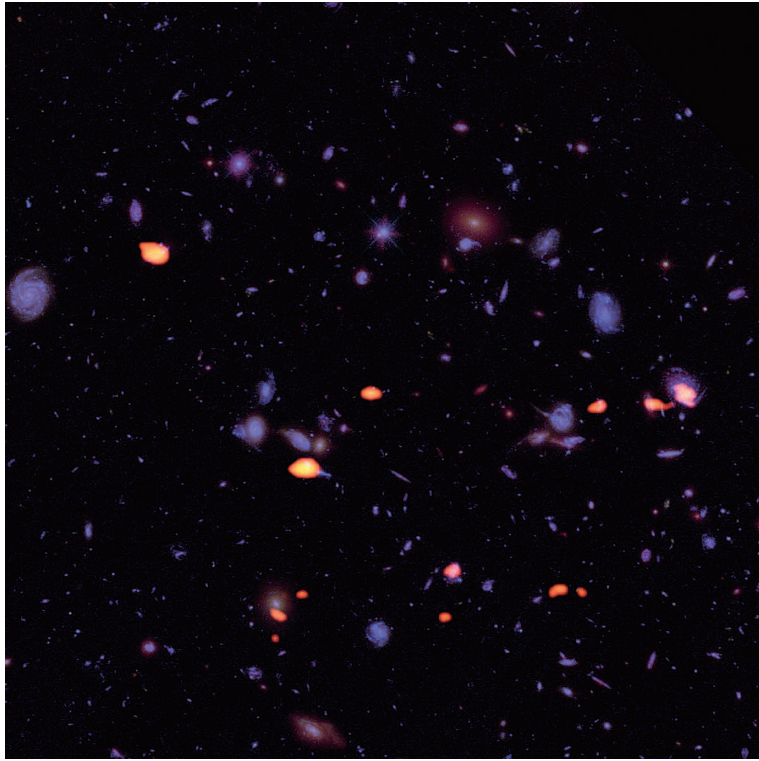
- (上) 図1：日本が開発した直径12 m/7 m アンテナからなるアタカマ・コンパクトアレイ（モリタアレイ）.
Credit: 国立天文台
- (下) 図2：アルマ望遠鏡が観測した、若い星おうし座HL星の周囲の塵の円盤。幾重にも見える暗い隙間の成因を巡って議論が巻き起こっている。 Credit: ALMA (ESO/NAOJ/NRAO)



- (上) 図3： アルマ望遠鏡が観測した，三連原始星L1448 IRS3B. 中央に二つの原始連星があり，そこから少し離れた左側に三つ目の原始星が写し出されている．原始星を取り巻く円盤は渦巻き構造をしており，円盤が重力的に不安定になって分裂した可能性を示唆している． Credit: Bill Saxton, ALMA (ESO/NAOJ/NRAO), NRAO/AUI/NSF
- (下) 図4： アルマ望遠鏡が撮影した，年老いた星ちょうこくしつ座R星を取り巻くガス．星から放出されたガスが，見えない伴星の公転運動によってかき混ぜられて渦巻き模様ができたと考えられている． Credit: ALMA (ESO/NAOJ/NRAO)



- (上) 図5：超新星1987Aのアルマ望遠鏡による電波観測結果（赤），ハッブル宇宙望遠鏡による可視光観測結果（緑），チャンドラX線望遠鏡による観測結果（青）を合成した画像．アルマ望遠鏡の観測結果から，電波を強く放つ塵が中心部に密集していることがわかる．Credit: ALMA (ESO/NAOJ/NRAO)/A. Angelich. Visible light image: the NASA/ESA Hubble Space Telescope. X-Ray image: The NASA Chandra X-Ray Observatory
- (下) 図6：アルマ望遠鏡とハッブル宇宙望遠鏡で観測した，渦巻銀河M77の中心部．アルマ望遠鏡で検出されたシアノアセチレン（ HC_3N ）の分布を黄色，硫化炭素（CS）の分布を赤，一酸化炭素の分布を青で示している．Credit: ALMA (ESO/NAOJ/NRAO), S. Takano et al., NASA/ESA Hubble Space Telescope and A. van der Hoeven



- (上) 図7: アルマ望遠鏡とハッブル宇宙望遠鏡で観測した、ハッブル・ウルトラディープフィールド。ハッブル宇宙望遠鏡で観測された銀河を紫, アルマ望遠鏡で検出された冷たい塵とガスを含む銀河をオレンジ色で示している。 Credit: B. Saxton (NRAO/AUI/NSF); ALMA (ESO/NAOJ/NRAO); NASA/ESA Hubble
- (下) 図8: 天の川のもとで観測をする, アルマ望遠鏡モリタアレイの7 mアンテナ群。 Credit: Y. Beletsky (LCO) /ESO